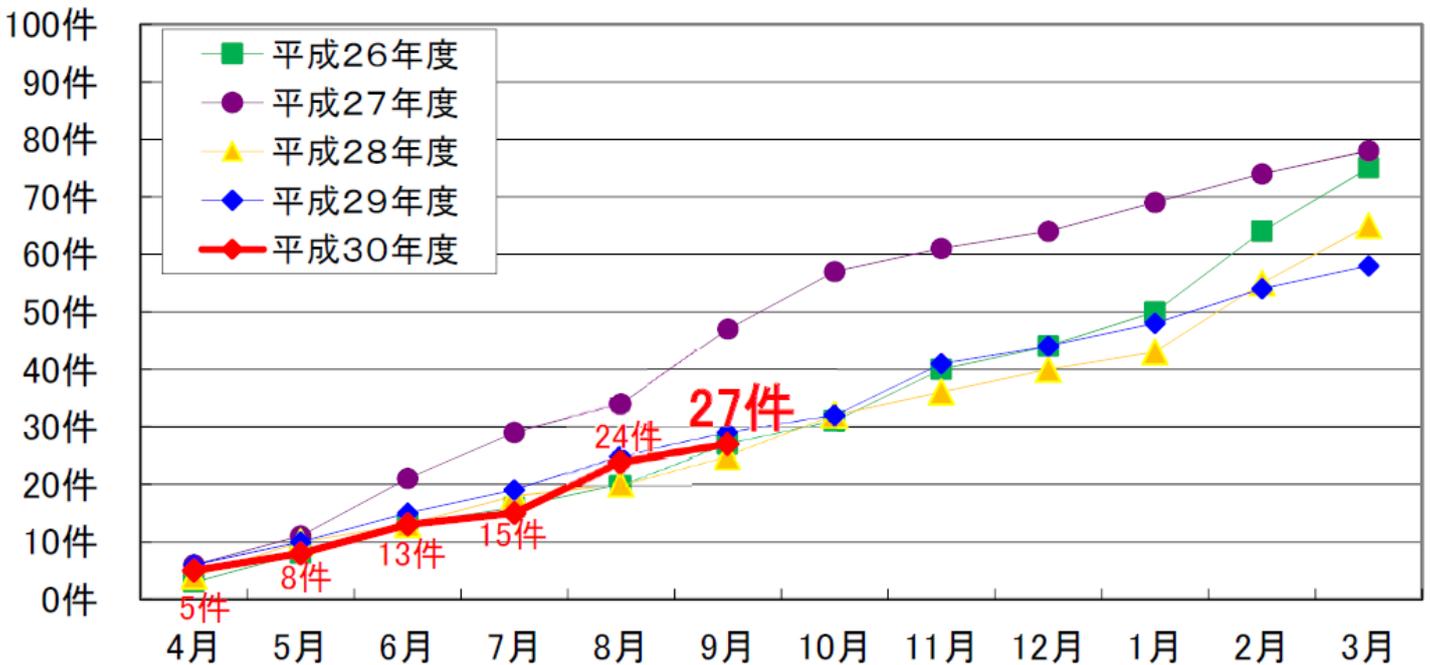


SAFETY SUPPORT NEWS

Contents

- 工事事故発生状況【9月事故発生件数（速報値）】
- 直轄工事における死亡事故
- 繰り返される同種事故 <架空線損傷事故が多発しています>

工事事故発生状況【9月事故発生件数(速報値)】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成26年度 累計	3件	8件	13件	16件	20件	27件	31件	40件	44件	50件	64件	75件
(月毎)	(3件)	(5件)	(5件)	(3件)	(4件)	(7件)	(4件)	(9件)	(4件)	(6件)	(14件)	(11件)
平成27年度 累計	6件	11件	21件	29件	34件	47件	57件	61件	64件	69件	74件	78件
(月毎)	(6件)	(5件)	(10件)	(8件)	(5件)	(13件)	(10件)	(4件)	(3件)	(5件)	(5件)	(4件)
平成28年度 累計	4件	10件	13件	18件	20件	25件	32件	36件	40件	43件	54件	64件
(月毎)	(4件)	(6件)	(3件)	(5件)	(2件)	(5件)	(7件)	(4件)	(4件)	(3件)	(11件)	(10件)
平成29年度 累計	6件	10件	15件	19件	25件	29件	32件	42件	45件	49件	55件	58件
(月毎)	(6件)	(4件)	(5件)	(4件)	(6件)	(4件)	(3件)	(10件)	(3件)	(4件)	(6件)	(3件)
平成30年度 累計	5件	8件	13件	15件	24件	27件						
(月毎)	(5件)	(3件)	(5件)	(2件)	(9件)	(3件)						

Topics

- ◆直轄工事における9月の工事事故は**3件**発生し、**そのうち1件は作業員が死亡する労働災害**です。
- ◆また、重点安全対策項目でもある**架空線の損傷が多発**しており、中には月例の安全協議会で周知し注意喚起されていた昨年度の事故事例と同様の事故を起こした例もありました。

直轄工事において、今年度2件目となる死亡事故が発生しました

平成30年9月19日（水）17時頃、山梨県内の中部横断自動車道建設現場において作業員1名が死亡する事故が発生しました。

本件は現在、詳しい状況や事故原因の調査を行っています。

■ 工事概要

中部横断自動車道（富沢～六郷）において、照明等に電気を供給するための受変電設備を設置する工事であり、事故発生当時は、城山トンネル電気室前におけるハンドホール据え付け作業を行っていました。



至 甲 府



至 静 岡



繰り返される同種事故 <架空線損傷事故が多発しています>

架空線損傷事故は例年、関東地方整備局重点安全対策項目に定められ、安全管理の徹底について注意喚起してきたところですが、今年度は**9月末時点で既に5件の架空線損傷事故が発生しました**。この件数は昨年度同日時点の2件を大きく上回っている状況です。

今一度、架空線損傷防止に関して注意喚起するとともに、安全管理の徹底をお願いします。

【架空線損傷事故 発生件数】

平成29年度：6件（年間）

平成30年度：5件（4～9月末）

◆平成30年度発生 架空線損傷事故概要

発生日	工事種別	概要	被害
4月24日 (火)	一般土木	バックホウが市道を挟んで対向側の作業場所へ移動する際、 アームを上げたまま走行 したため架空線に接触し、衝撃で電柱が倒壊	通信線切断、電柱倒壊、市道照明灯不灯
6月22日 (金)	A s 舗装	仮置き場での土砂搬出を終えたダンプトラックが 荷台を上げたまま走行 したため、敷地から公道へ出る際に架空線に接触し、損傷	町管理施設の通信線断線
7月13日 (金)	A s 舗装	作業場所で バックホウを旋回 した際に架空線に接触し、電力引き込み柱が倒壊	引き込み柱倒壊、民地看板の照明不灯
8月8日 (水)	A s 舗装	締め固め用ハンドローラーを移動するため、クレーン機能付き バックホウで吊り上げ旋回 したところ架空線に接触し損傷	町管理の災害用通信線断線
8月23日 (木)	港湾土木	機材搬出に伴い、トラック荷台に機材を積載した際に高さ制限を超える部材を取り外さないまま積載したため、第三者施設の高さ制限標示バーに接触した。	第三者施設標識の損傷

※上記案件には一部審査中の案件が含まれており、審査の結果「不問」となる場合があります。



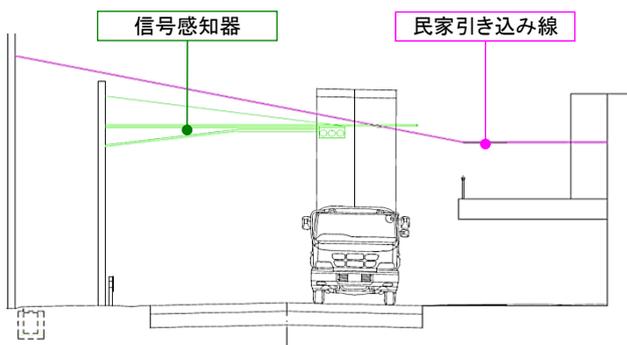
繰り返される同種事故 <架空線損傷事故が多発しています>

ダンプの荷台による架空線損傷

- ▶ 仮置場での土砂荷下ろしを終えたダンプトラックが、荷台を上げたまま走行し、架空線を損傷する事故は平成29年度も同様の事故が発生しています。
- ▶ 仮置場は、施工現場から離れていることから、安全意識が薄れ、**架空線・上空施設への防護対策が疎かになっている**状況が明らかになっています。
- ▶ 施工場所はもちろんのこと、仮置場においても重機や荷役運搬機械が稼働する場合は、架空線・標識等上空施設の防護対策、安全管理を徹底して下さい。

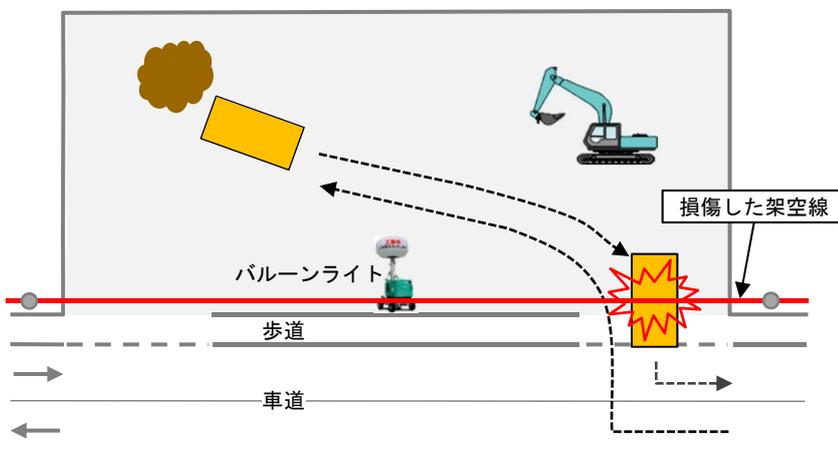
事件事例①（平成29年8月発生）

仮置場への土砂の荷下ろしを終えたダンプトラックが現場へ戻る際に、荷台を上げたまま公道を走行したため、車両感知器及び民家への引き込み電線を損傷した。



事件事例②（平成30年8月発生）

仮置場への土砂の荷下ろしを終えたダンプトラックが現場へ戻る際に、荷台を上げたまま走行したため、仮置場出入口上空の架空線に接触した。



いずれの事故も仮置場は無人であり、高さ制限等も実施しておらず、運転手は荷台を下げ忘れていることに気づかないまま走行した。



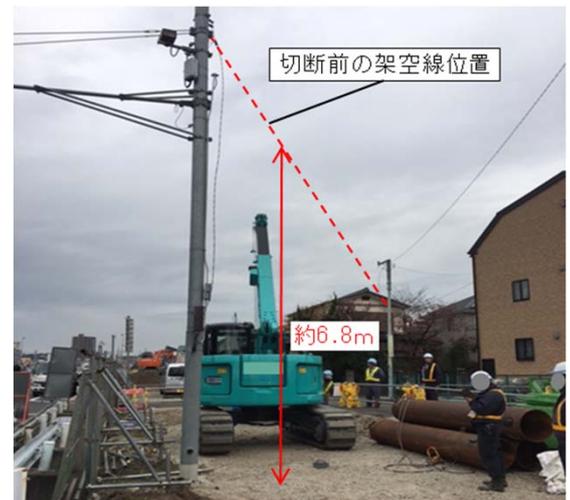
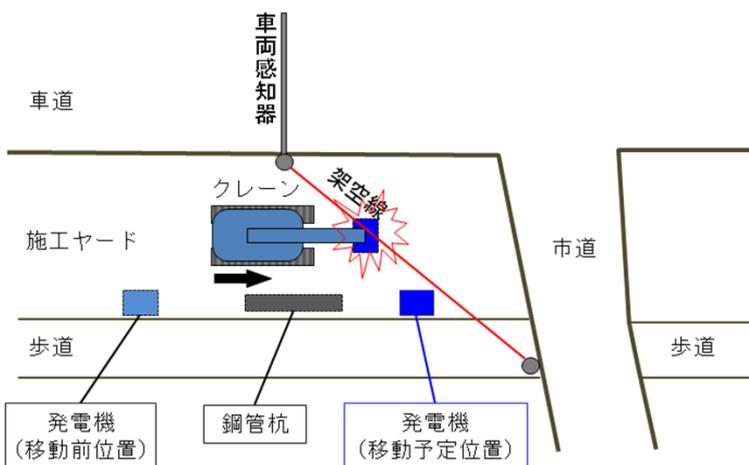
繰り返される同種事故 <架空線損傷事故が多発しています>

バックホウのアームによる架空線損傷

- ▶ バックホウのアーム・ブームが架空線に接触し、衝撃で電柱が倒壊する事故が今年度2件発生しました。
- ▶ 三角旗や門型柱などの対策が実施されていない状況で発生することが多く、特に、夜間工事においては、施工現場が暗く架空線を見落とし接触するケースも見られます。
- ▶ 架空線防護対策とあわせて、オペレーターや監視員が十分に架空線を確認できる現場環境の整備も必要です。

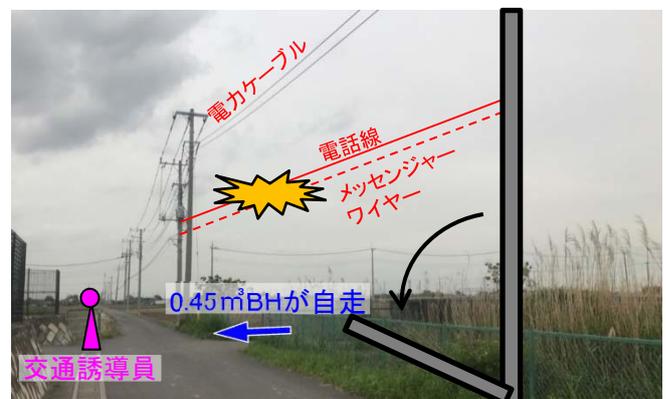
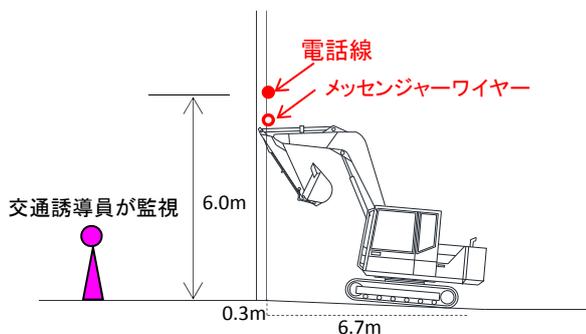
事故事例③（平成29年11月発生）

施工ヤード内で機材を移動させる際に、小型の移動式クレーンで機材を吊り上げ、そのまま移動したため、架空線に接触し切断した。



事故事例④（平成30年4月発生）

バックホウが作業場所に向けて移動するため自走していた際に、アームを上げたまま走行したため、架空線に接触し、衝撃で電柱が倒壊した。



いずれの事故もオペレーターは架空線を認識していながらも、アーム・ブームを上げたまま移動した。